

顔の見える木材供給体制構築事業

【テーマ】 山林所有を200年永続する バリューチェーン構築

背景と目的

【背景】

- ・森林管理と森林育成意識の不足、不安定なサプライチェーンと木材価値
- ・産業衰退を主要因とする、人口減、集落の過疎化。地域資源の活用不足。

【目的】

- ・200年後の森と地域の姿まで考慮した地域サプライ(バリュー)チェーン構築

対象とする木材・製品、川上から川下までの流通の考え方など

- 山主がコーディネーターとなり森林の将来ビジョンを組み込んだ供給体制。
- 一般市民参加による普及啓発と「外部の目」によるモチベーションアップ効果
- サプライチェーンでの高付加価値製品供給による山への還元(仕組み化)
- 地域課題でありニーズも高まる古民家リノベ製品の開発、マーケットが広がる子供向け製品の普及



事業実施主体

NPO法人つれもてネット南紀熊野

実施体制・参加団体等

■南紀熊野フォレストスタイル協議会■

- 事務局: NPO法人つれもてネット南紀熊野
- 山林所有者・コーディネート・製品販売: 千品山林社
- 林業: 株式会社橋本林業
- 加工: 株式会社山長商店
- 建築・不動産・普及・まちづくり: 南紀みらい株式会社
- 【協力】デザインディレクション: Kデザイン

事業内容(本事業における具体的な実施項目)

- ①「顔の見える&森づくりの見えるサプライチェーン」構築と製品開発
200年永続する森林づくりを見据え、施業計画、伐採後森林ビジョンまで組み込んだサプライチェーン構築と、山への還元を前提とした地域材付加価値を上げる古民家リノベスキーム(内装材、建具)開発。
- ②エンドユーザー参加の仕組みづくり (会員制活動内容は広く発信)
会員制等の仕組みづくり、体験型ツアー等リアル参加×WEB等でライブ情報に届けるデジタル参加の掛け算。会員コンテンツ検討とサービス化。伐出森林のその後を継続的に届けることで、「外部の目」による再生林等森づくりへのモチベーションアップと一般市民参画の機会創出。
- ③情報発信ツール整備
WEB、SNS、パンフレット、動画等の整備。提供側からの発信だけでなく、エンドユーザー参加型のツールも検討。
- ④イベント出展、展示(普及啓発)
200年の森づくりの取り組みを伝えるべく、パネルや動画、製品等を、集客の見込める場所やイベント等で展示。(東京、大阪など都市部候補)

スケジュール

7月

8月

9月

10月

11月

12月

1月

サプライチェーン構築と製品開発

情報発信ツール整備

イベント

エンドユーザー参加の仕組みづくり

イベント

イベント